

日本初!!!

5団体による共同開催！
認知症の問題は、年齢・性別・
病名等によってもさまざま。
複雑に入り組んだ認知症問題を
当事者団体が一致団結し
解決の道を求め共に歩みだす
第一歩目のイベントです！

第32回 国際アルツハイマー病協会 国際会議プレイベント IN 東京

～ともに新しい時代へ 日本から世界へ～

日本の当事者団体・あつまる

公益社団法人
認知症の人と家族の会

全国若年認知症家族会
支援者連絡協議会

日本認知症
ワーキンググループ

男性介護者と支援者の
全国ネットワーク

レビー小体型認知症
サポートネットワーク東京

2016年 10月8日 土

参加費
無料

定員
490名
申し込み不要
先着順

■開催場所：新宿区立四谷区民ホール ■開場：受付13時開始

■主催：ADI2017 国際会議プレイベント実行委員会 ★この事業は三菱財団・フランスベッドの協力を得て開催しております。

■後援（予定）：厚生労働省・東京都・新宿区・他

プログラム

- 13：10 認知症当事者合唱団「はるか」によるコーラス
- 13：30 開会挨拶
- 13：40 パネルディスカッション 日本の当事者団体・あつまる
- 15：20 認知症本人メッセージ
- 15：50 特別基調講演 京都府立洛南病院 副院長 森 俊夫
- 16：35 共同アピール宣言



当事者による作品

問い合わせ先：公益社団法人認知症の人と家族の会 東京都支部事務所
TEL/FAX 03-5367-8853 火・金 10:00~15:00

プロフィール

京都府立洛南病院 副院長 森 俊夫

もり・としお 1983年鳥取大学医学部卒。京都大学医学部附属病院精神科を経て、1987年から京都府立洛南病院勤務、2013年から現職。全国でも稀な若年性認知症外来と一体となった若年性認知症ケアの開設などに尽力。2012年に開催された「京都市認知症ケアを考えるつどい」に始まり、認知症本人の声を政策評価の指標とした「京都市オレンジプラン」の策定に中心的役割を果たした。引き続き、京都府宇治市にて、当事者の声をもとに医療、介護、福祉だけでなく企業、学校、行政、住民など地域全体で認知症になっても安心な社会をつくるための活動に取り組んでいる。

パネルディスカッション 当事者団体

■公益社団法人 認知症の人と家族の会

認知症の人と家族、専門職、ボランティアなどが力をあわせ「認知症になっても安心して暮らせる社会」をめざしている。1980年に京都で誕生し、励まし合い助け合い、社会の関心を高め、認知症への施策の向上を促進してきた。全国47都道府県にある支部では「つどい」「会報の発行（毎月・2万部）」「電話相談（全国で年間2万件）」を活動の三本柱としている。

■日本認知症ワーキンググループ

日本認知症ワーキンググループ（Japan Dementia Working Group、略称JDWG）認知症の人本人をメンバーとし、認知症の人と社会のために、認知症の人自身が活動していく組織として2014年10月に発足。認知症になってからも希望と尊厳をもって暮らせる社会を創ることを目的に、本人の意見を集約し厚労省や社会に提案したり、本人同士が励ましあい意見交換する場を継続的に開いている。

■レビー小体型認知症サポートネットワーク東京（DLBSN）

レビー小体型認知症（DLB）は多岐にわたり全身に症状が出現する病気。病気やケアについて患者本人・家族だけでなく、関連専門職にも知識を得る機会として、現在、全国18の「エリア」で交流会を開催している。啓発・家族会・介護者教室・医療相談などの役割をもち、医療とケアの両面からサポートしている。

■全国若年認知症家族会 支援者連絡協議会

全国の若年認知症家族会及び支援者の代表などで構成し、若年認知症に関わる各地域の医療・福祉・介護・就労状況等の情報交換を行い、若年認知症の人と家族の安寧と権利を確保するよう各種の機関へ呼びかけ、若年認知症に特化した支援とケアを拡充するための社会活動を協働して行うことを目的としている。

■男性介護者と支援者の全国ネットワーク

男性介護者の多くが介護や家事・仕事と介護の両立に悩み、介護の抱え込みや社会との孤立で介護心中や虐待などが起きている。男性介護者の抱える問題を社会化しようと2009年3月に会を発足、事業は「介護退職ゼロ作戦！フォーラム」や「ケアメンサミットJAPAN」の開催、介護手記の発行、各地に誕生した会の連携を図っている。

認知症当事者合唱団 はるか

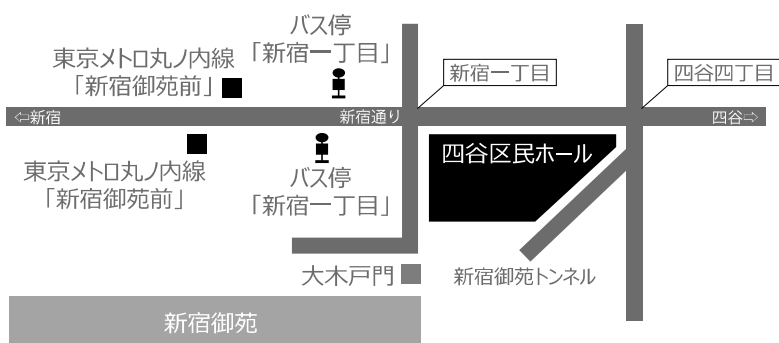
今回のために結成された、認知症の人本人・介護者・専門職による合唱団。年齢も仕事も住むところもさまざま、いろいろな皆さんが集まって歌う声ははるか彼方に向かって嬉しく楽しく響きわたる。さあ一緒にどうぞ～ はるかと共に！

国際会議開催の意義

今、世界でも日本でも認知症への関心が高まり、施策も進もうとしています。この時期に高齢社会が進む日本で再び4000人規模（ADI国際会議史上かつてない参加数）で成功させることは、世界的にも大きな影響を与えます。また国内的には、新オレンジプランの達成の期限の年であり、政府や自治体に目標達成を迫る効果もあります。

注：国際アルツハイマー病協会国際会議プレイベントで使用する当事者という言葉は、認知症の本人・家族・支援者のことをさします。

アクセス



新宿区立四谷区民ホール

〒160-8581 新宿区内藤町 87 番地

- 地下鉄：東京メトロ・丸ノ内線「新宿御苑前」2番出口より徒歩5分
- 都バス：品97 新宿駅西口～品川車庫「新宿一丁目」下車